

図表-1 年代別アンケート調査対象者と回答率

年代	調査対象者(人、%)	回答率(%)
20歳代	208 (20.8)	27.9
30歳代	205 (20.5)	41.0
40歳代	159 (15.9)	51.6
50歳代	177 (17.7)	67.2
60歳代	124 (12.4)	62.9
70歳代以上	127 (12.7)	59.8
計	1000 (100.0)	50.3

本市議会では、議会の運営と活動の現況を市民の皆様にお知らせし、議会に対する理解と協力を求めることを目的として『市議会だより』を発行しています。今回、この市議会だよりについて、市民の皆様の意識や意見を伺い、より読みやすく充実したものにするために、アンケート調査を実施しました。

この調査は、市内にお住まいの二十歳以上の方から無作為抽出法により選ばせていただいた一、〇〇〇人の方を対象に行いました。対象者の方には、アンケート調査票を七月中旬に郵送し、八月中旬までに五〇三人の方からご回答いただきました。ご協力いただきありがとうございます。

今回、ご回答いただきました調査票の集計ができましたので、主な調査結果についてお知らせします。

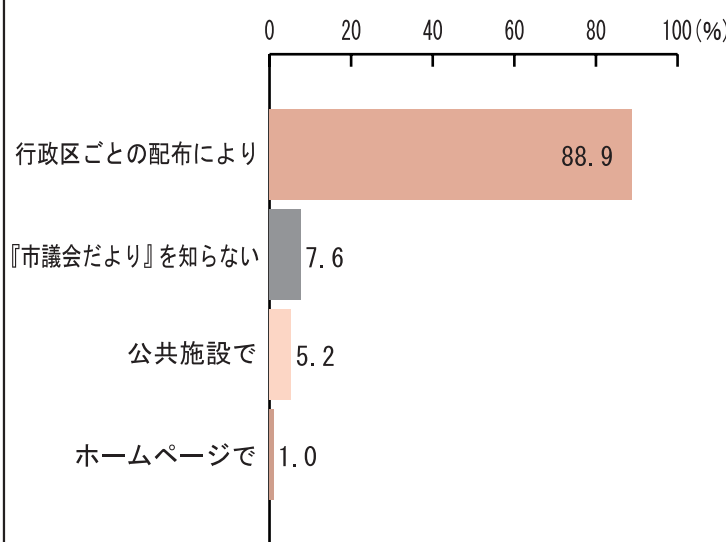
現在、市民の皆様のご意見を参考に今後の市議会だよりについて検討しています。市民の皆様にご満足いただける市議会だよりを目指していますので、今後皆様のご意見をお寄せください。

『市議会だより』に関するアンケート調査結果報告

はじめに

年代別の回答率は、二十歳代(二七・九%)、三十歳代(四一%)、四十歳代(五一・六%)、五十歳代(六七・二%)、六十歳代(六二・九%)、七十歳代以上(五九・八%)と二十歳代、三十歳代の回答率は低く、五十歳代以上の回答率は、高くなっています。(図表-1)

図表-2 『市議会だより』の認知度・情報入手方法(複数回答)



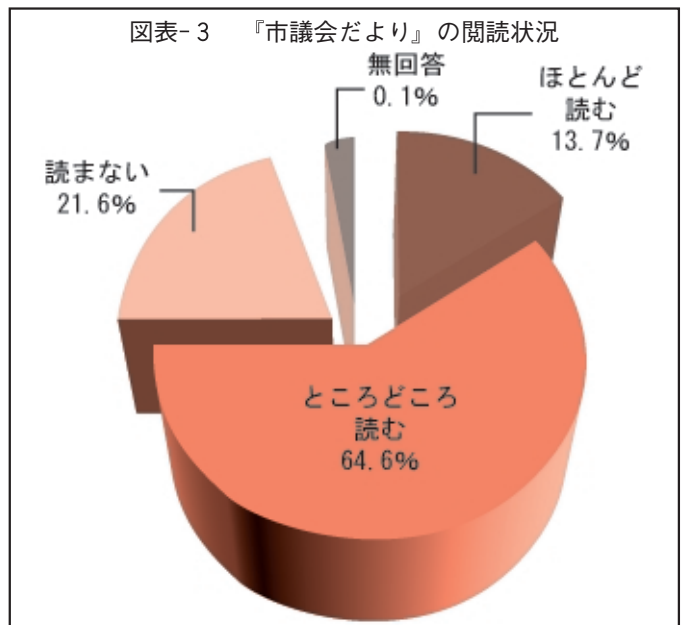
『市議会だより』の認知度・入手方法

『市議会だより』の認知度については、「知らない」が七・六%しかなく、認知率は九〇%以上でした。(図表-2)

「市議会だよりを知らない」を性別・年代別に見ると、男性が一・四%、二十歳代が二九・三%となっており、男性と二十歳代が、やや認知度が低くなっています。

これは、「行政区ごとの配布により」知っている比率と関連していると思われます。「行政区ごとの配布」により知っている比率は全体で八八・九%です

図表-3 『市議会だより』の閲読状況



二 閲読状況

が、男性では八四・二%、二十歳代では六三・八%と、かなり低くなっています。

『市議会だより』を、男性や二十歳代の中でも特に地域社会との関わりが薄い層へ浸透させることが、課題の一つであることがわかりました。

なっています。『市議会だより』を読まない理由の中で、二十歳代に多いのは、「興味が無い」の六四・三%です。

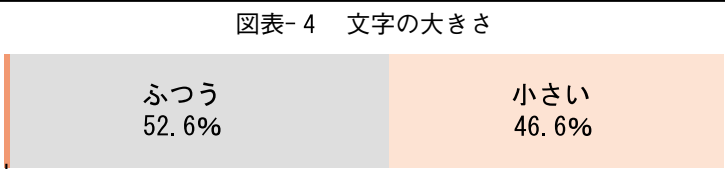
若い世代には、もともとの興味段階で、『市議会だより』に目を向けられていないことがわかりました。

『市議会だより』を読んでいる比率は、「ところどころ読む」を含めて、約七八・三%と高くなっています。(図表-3)

年代別では、二十歳代、三十歳代では「ほとんど読む」が三・六%に過ぎず、「読まない」比率が二十歳代で五〇%、三十歳代で三九・八%と非常に高く



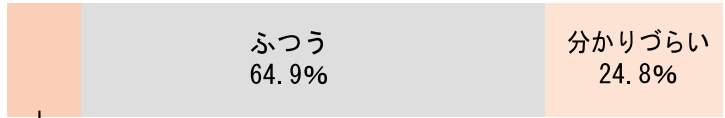
図表-4 文字の大きさ



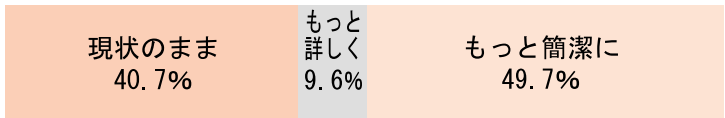
図表-5 デザイン・レイアウト



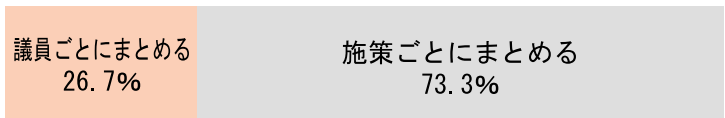
図表-6 文章表現



図表-7 『代表質問・一般質問』の分量



図表-8 『代表質問・一般質問』の分類方法



三 紙面の評価

●ビジュアル／発行時期／文章表現

「文字の大きさ」については、「小さい」と感じている比率が四六・六％と半数近くを占め、文字の小ささへの不満が強く表れています。(図表-4)

また、定例会終了から約二か月後という発行時期についても、「遅い」とする比率が四〇％で、字の大きさと発行時期が全体的には課題になります。

また、「デザイン・レイアウト」「文章表現」に対する不満が三〇％近い比率となつていきます。(図表-5、6)

●ページ数／記事の分量・分類方法

「ページ数」については、「一六ページ以下にまとめてよい」という比率が三分の一以上あり、ページ数を少なくして、全体を簡潔に見渡せるようにという希望が感じられました。

「代表質問・一般質問」については、「もっと簡潔に」との比率が四九・七％と最も高くなつていますが、「一般質問」では、「現状の一議員一ページ程度」とする比率も四〇・七％ありました。「もっと詳しく」という比率は九・六％と低いので、要点を簡潔にまとめていく工夫が求められているようです。(図表-7)

す。(図表-7)

ただ、年代で差があり、「もっと簡潔に」は二十歳代で五二・七％、三十歳代で六四・三％となつていますが、六十歳代では四四％、七十歳代以上では二一％と低くなつていきます。

「代表質問・一般質問の分類方法」では、「施策ごと」にまとめるべきとする比率が七三・三％と高くなつていきます。「議員ごと」にまとめるよりも、関心がある施策を要領よく見たいというニーズが高いことがわかりました。年代別では、若い世代の方が、施策ごとまとめる要望が強くなつていきます。(図表-8)

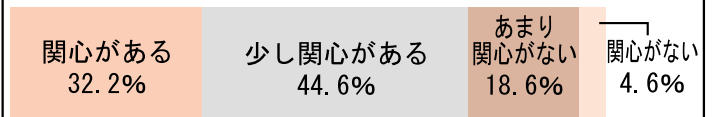


四 関心のある記事

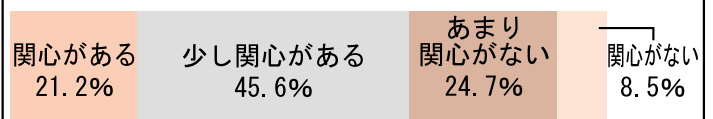
「関心がある」「少し関心がある」を合わせた比率で見ると、関心度が最も高い記事は、「こんなことが決まりました」の七六・八％です。「代表質問・一般質問」も六六・八％と高くなつていきます。やはり議会の根幹的機能に対しては、関心が高いと言えます。(図表-9、10)

ただ、年代でかなり差があり、「代表質問・一般質問」は、「関心がある」「少し関心がある」を合わせた比率が二十歳代で五〇％、三十歳代で四五・七％と、六十歳代以上の八〇％以上に比較すると若い世代で低くなつていきます。

図表-9 『こんなことが決まりました』の関心度

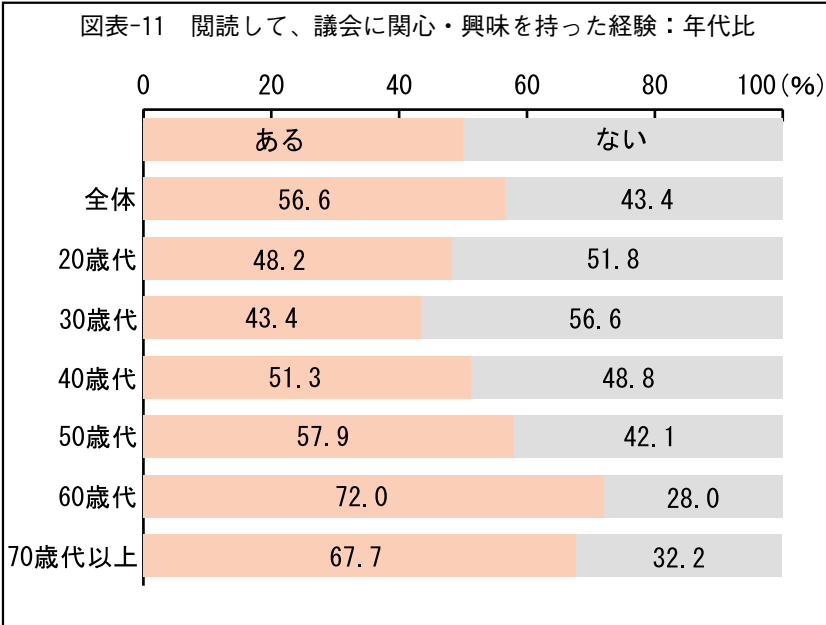


図表-10 『代表質問・一般質問』関心度



「こんなことが決まりました」も、同様に「関心がある」「少し関心がある」を合わせた比率が二十歳代で六六・一％、三十歳代で六七・五％と、五十歳代以上の八〇％以上に比較すると若い世代で低くなつていきます。「行政視察の報告」は関心度が四六・八％と低くなつていきます。これも、「関心がある」「少し関心がある」を合わせた比率が二十歳代で三二・一％、三十歳代で三一・三％と、六十歳代以上の六〇％近い比率と比較すると若い世代でかなり低くなつていきます。これは、行政視察自体の必要性について、認知されていない方が多いことが影響しているのかもしれない。

図表-11 閲読して、議会に関心・興味を持った経験：年代比



五 『市議会だより』の影響

読んだことがきっかけで、議会や市政に関心・興味を持ったことがある比率は、五六・六%に及んでいます。議会や市政のあり方を考えてもらう非常に重要なきっかけになっていることがわかりました。

ただ、年代別で見ると、二十歳代で四八・二%、三十歳代で四三・四%と、六十歳代の七二%、七十歳代以上の六七・七%に比較すると若い世代で低

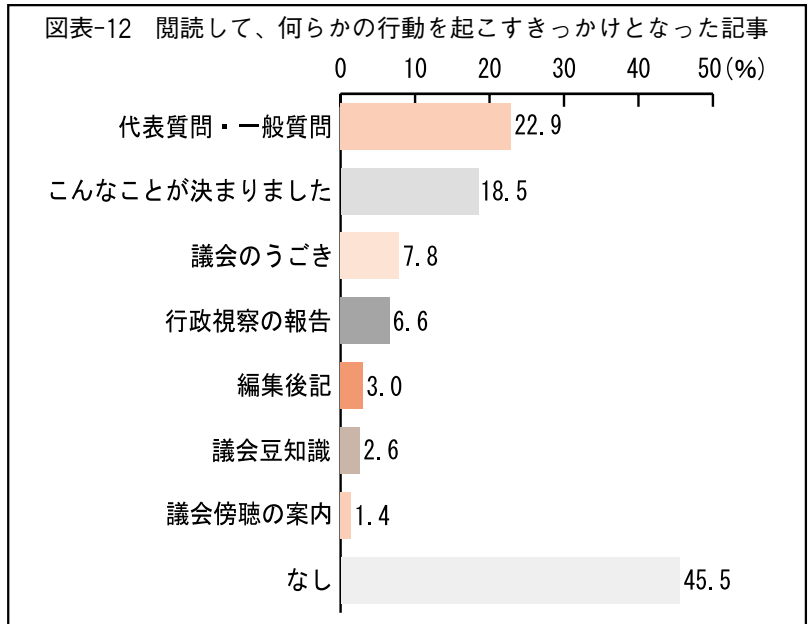
くなっています。(図表-11) 記事を読んだことがきっかけで、「話題にしたり、議会傍聴や電話での問い合わせをしたことがある」等何らかの行動を起こした比率は、半数以上に及んでいます。その比率が最も高い記事は「代表質問・一般質問」で二二・九%、「こんなことが決まりました」も一八・五%となっています。(図表-12)

『市議会だより』が市の施策等に関する話題の活性化の役割を担っていることがわかります。「代表質問・一般質問」では、

読んだことがきっかけで、「話題にしたり、議会傍聴や電話での問い合わせをしたことがある」比率が、男性で二八・二%、女性で一八・六%と、男性の方が口コミ効果等は高くなっています。

調査に同封した第二〇号の「代表質問・一般質問」「行政視察の報告」「こんなことが決まりました」「議会豆知識」「議会のうごき」「議会傍聴の案内」「編集後記」の七つの記事を読んで、何らかの行動を起こしたかどうかについては、すべての項目において、「読んだだけ」

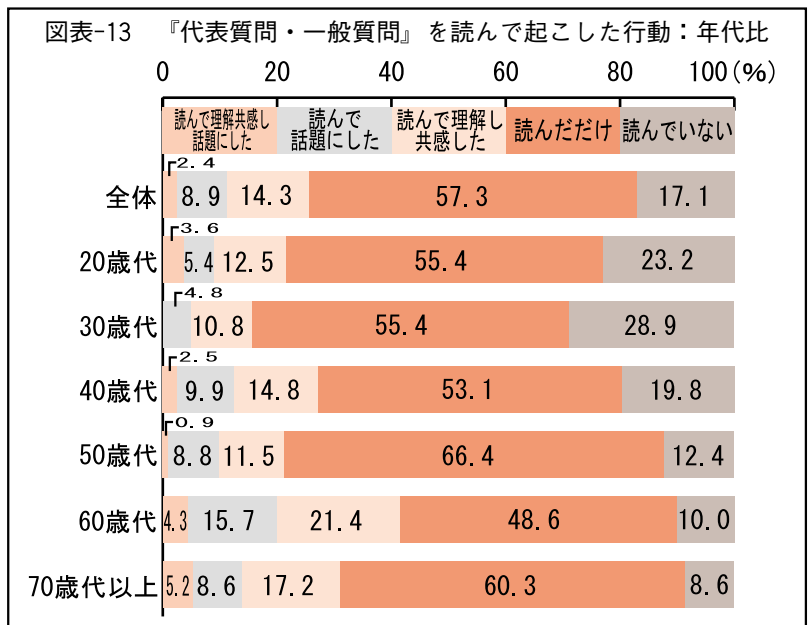
図表-12 閲読して、何らかの行動を起こすきっかけとなった記事



の比率が半数以上に及んでいます。しかし、「代表質問・一般質問」では、「読んで理解共感した」話題にした「読んで話題にした」を合わせて一一・三%に達しており、口コミ効果も大きいことを示唆しています。

ただ、年代で差があり、「読んで理解共感した」話題にした比率は、二十歳代では九%、三十歳代では四・八%ですが、六十歳代では二〇%、七十歳以上では一三・八%となっています。(図表-13)

図表-13 『代表質問・一般質問』を読んで起こした行動：年代比



六 今後の改善点

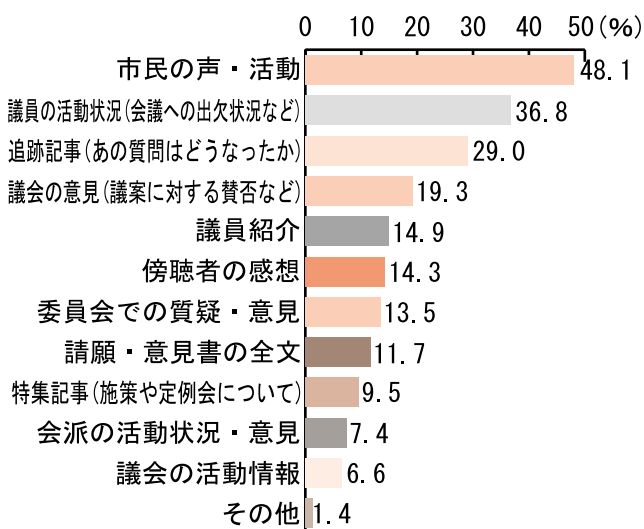
今後、充実してほしい記事は、「こんなことが決まりました」が六一・二%、「代表質問・一般質問」が四八・五%と、「読んで話題にした」がある。比率が高い二つの項目が、いずれも高くなっています。(図表-14)これは、性別・年代を問わず、高くなっています。

今後、掲載してほしい記事は、「市民の声・活動」が四八・一%と半数近くを占めました。「議員の活動状況」の三六・八%、「追跡記事」の二九%がこれに

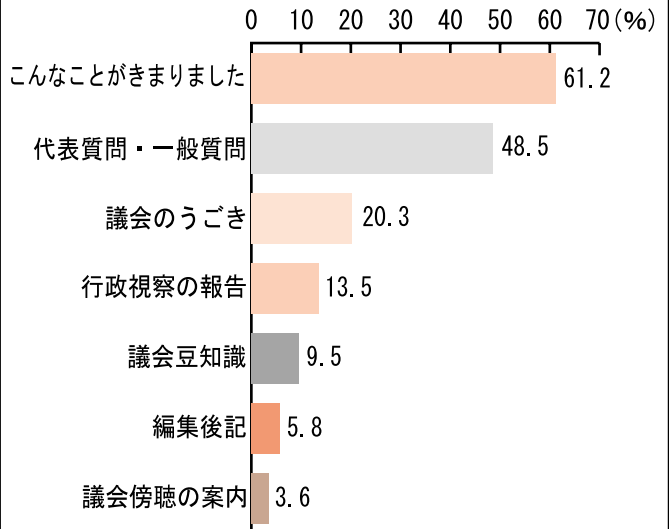
続いています。(図表-15) 「市民の声・活動」では、二十歳代で五八・六%、三十歳代で六一・九%に対して、六十歳代で四八・七%、七十歳代以上で三〇・七%になっており、若い世代ほど、「市民の声・活動」に対するニーズが高いことがわかりました。



図表-15 今後、掲載してほしい記事



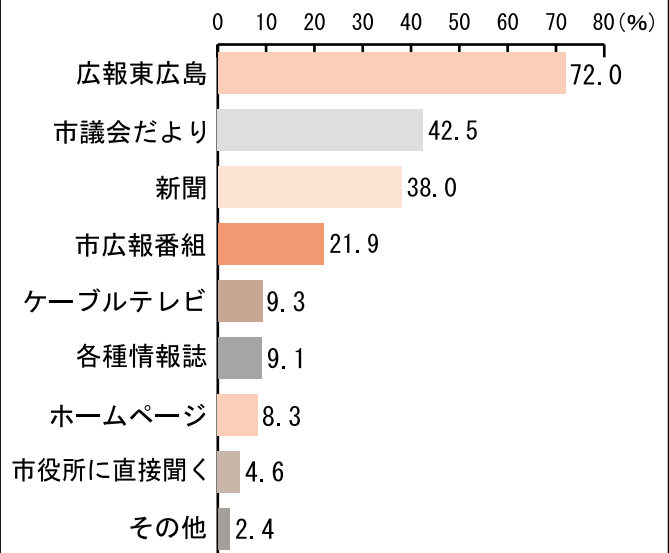
図表-14 今後、充実してほしい記事



七 市に関する情報の入手方法

市に関する情報の入手方法は、「広報東広島」が七十二%と圧倒的に高い比率であり、「市議会だより」は四二・五%、「新聞」が三八%でした。「広報東広島」の圧倒的な媒体力が目立っています。「ホームページ」は八・三%と、まだまだ媒体としての力は発展途上でした。(図表16)

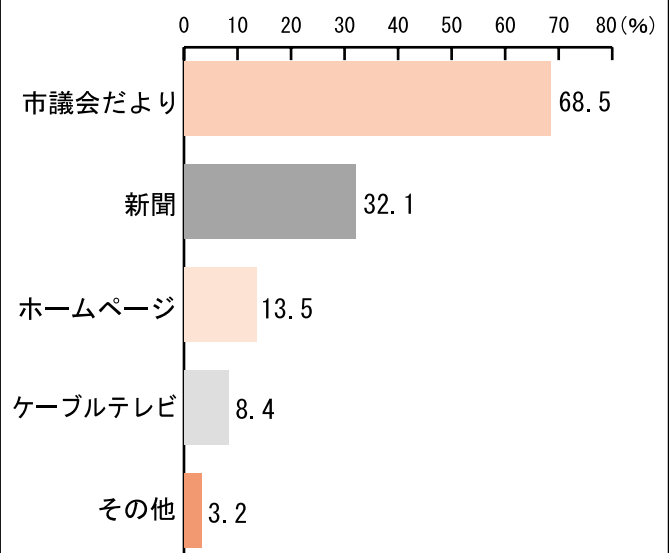
図表-16 市に関する情報の入手方法



八 議会ホームページへのアクセス

市議会のホームページにアクセスした経験がある方は、市の情報をホームページから入手している比率が、一四・三%に過ぎません。年代別では、四十歳代二六・六%、三十歳代二〇・五%、二

図表-17 市議会に関する情報の入手方法への希望



九 市議会の傍聴経験

本会議を傍聴した経験がある方は四・六%に過ぎません。年代別で見ても、六十歳代は九・五%、七十歳代以上では八・八%となっていますが、若い世代ではその比率はきわめて低くなっています。傍聴していただく機会を増やすためにも、広報活動を充実して、議会の活動により一層の関心を持ってもらう必要があります。

十 市議会に関する情報の入手方法

今後も市議会に関する情報を『市議会だより』から入手したいと考えている方が六八・五%と、圧倒的に高い比率となっています。(図表17)

